

新規事業採択時評価結果（平成20年度 新規事業化箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：下保 修

事業の概要

事業名	一般国道1号 磐田バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中部地方整備局
起終点	自：静岡県磐田市岩井 至：静岡県磐田市小立野	延長	7.2 km		
事業概要					
<p>一般国道1号は、日本の社会経済活動を支える主要幹線道路で、国内交通の東西軸を結ぶ物流の大動脈として重要な路線である。このうち、磐田バイパスは、磐田市内の現道国道1号に平行し市街地北部を通過する延長約7.2kmの路線で、現在、2/4車線の暫定供用を行っている。</p> <p>磐田バイパスを含む東海有料4BPの無料化後(H17.3)、現道国道1号の交通環境には一定の効果が得られたもののバイパス部では交通環境が悪化、浜松バイパス（新天拡幅）の供用により、磐田バイパスに更なる交通負荷が強いることが想定される。このため、磐田バイパスの4車化整備は、東西軸の交通需要に対して不足する交通容量を補完し物流の効率化を図るとともに、沿道環境の改善、地域生活の利便性向上に資する事業として早急な整備が必要である。</p>					
事業の目的、必要性					
<ul style="list-style-type: none"> ■交通負荷の軽減：渋滞損失時間の削減、死傷事故件数の削減 ■沿道環境の改善：現道国道1号における夜間騒音要請限度超過箇所を改善 ■物流効率化の支援：浜松市～磐田市間における関連企業間の輸送時間が短縮し物流効率化に寄与 					
全体事業費	53億円		計画交通量	56,700台/日	
事業概要図					
<p>The map illustrates the Iwata Bypass (L=7.2km) running parallel to the existing National Route 1. It shows the route from Iwata to Sakai, passing through various interchanges (I.C.) and points of congestion (渋滞ポイント). Key locations include Iwata, Sakai, and the surrounding area. The map also indicates the location of the existing National Route 1 and the planned bypass route.</p>					

関係する地方公共団体等の意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・H18年11月 磐田市長・市議会議長より、「磐田バイパス4車線化整備促進」の要望あり。 ・H19年 8月 島田・磐田間バイパス建設促進期成同盟会より、「磐田バイパス4車線化の促進」と「バイパス沿線の騒音対策の拡充実施」の要望あり。 ・H19年 8月 磐田市長、市議会議長、商工会議所会頭・袋井市長、市議会議長、商工会議所会頭より、「国道1号磐田・袋井バイパスの4車線化の整備促進」の要望あり。 	

事業採択の前提条件	
<ul style="list-style-type: none"> ・費用対便益：便益が費用を上回っている。 ・手続きの完了：都市計画決定済 	

事業評価結果

費用対便益	B/C	8.2	総費用： 事業費：46億円 維持管理費：30億円	総便益： 走行時間短縮便益：597億円 走行費用減少便益：15億円 交通事故減少便益：14億円	基準年 平成19年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C= 7.4 (交通量-10%)	B/C= 9.0 (交通量+10%)		
		事業費変動	B/C= 8.7 (事業費-10%)	B/C= 7.7 (事業費+10%)		
		事業期間変動	B/C= 8.3 (事業期間-20%)	B/C= 8.1 (事業期間+20%)		
事業の影響	評価項目		評価			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	◎	根拠 ■磐田バイパス4車化により、国道1号の渋滞損失が大幅に改善される。 【渋滞損失時間の改善】 ○磐田バイパスの渋滞損失時間が約2割削減 (現況18.4万人時間/年km → 整備後：14.2万人時間/年km) 【主要渋滞ポイントの解消】主要渋滞ポイント（5箇所）の緩和に期待		
		事故対策	○	■現道からバイパスへの交通転換を図ることで、現道国道1号の交通安全性が向上する。 【死傷事故件数】 ○並行する現道国道1号の死傷事故件数が低減		
	歩行空間		—	—		
	社会全体への影響	住民生活	○	■生活快適性の向上 磐田バイパス4車化により、磐田バイパス、現道国道1号では、一層の渋滞・交通事故の削減、沿道環境の改善が図られるなど地域住民の生活の快適性が向上		
地域経済		○	■地域間のアクセス性向上 磐田バイパスの4車化により、政令指定都市である「静岡市」と「浜松市」のアクセスが約10分短縮され、地域間連携が強化			
環境		○	■沿道環境の改善 磐田バイパスの4車化により、地域の道路走行性が向上し大気環境が改善 (CO2：909.8 t-CO2/年削減 NOx：7.3t/年削減 SPM：0.7t/年削減)			
地域社会		○	■地域社会の支援 輸送時間が短縮し物流効率化が図られ、地域の主要産業である製造業等の発展に寄与。 ○ヤマハ発動機（磐田市）～ヤマハマリン（浜松市）間所要時間が約2割（約49分→約40分）短縮 ○磐田市内の交通円滑化により、1日1台あたりの企業間往復回数が増加することで、輸送トラックの台数削減が可能になり輸送コストが縮減 (例：トラック3台・1日2往復/台 → トラック2台・1日3往復/台)			
事業実施環境		○	地元自治体等からの強い整備要望がみられる。			

採択の理由

- ・費用対便益が8.2と便益が費用を上回っているとともに都市計画手続きが完了していることから、事業採択の前提条件が確認できる。
 - ・各事業評価結果をみても評価は概ね良好なものとなっており、特に「渋滞対策」においては大きな効果を発現すると判断ができる。
 - ・磐田市長や地元自治会等からの強い整備要望も見られ、事業推進におけるハードルは高くないと考えられる。
- 以上より、本事業を採択した。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。